

新着案内

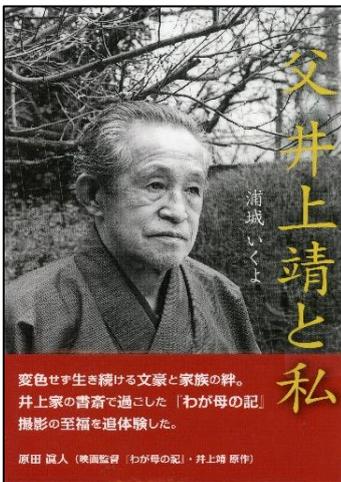
町田の文学

2016年11月15日発 第35号

町田ゆかりの作家や市民の皆さまがお書きになった文学作品などのうち、
2016年6月から9月末までに、
購入や寄贈等により町田市民文学館で受入れした主なものをご紹介します。
これらの作品は、町田市立図書館の利用券を使って借りることができます。
なお、貸出中の場合は、リクエストサービスをご利用ください。
また、市民の皆さまがお書きになった文学作品のご寄贈もお待ちしております。
詳しくは、カウンター職員にお尋ねください。



文学



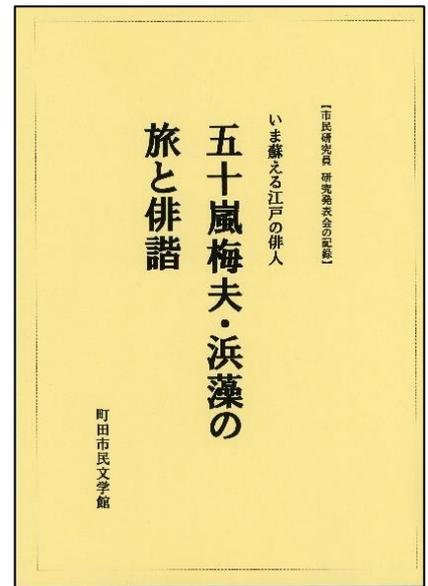
★『父 井上靖と私』

市内在住の著者、浦城いくよさんは、文豪井上靖のご長女。長い間、周囲から執筆を勧められていた「思い出の記」を、井上没後25年を機にようやく刊行。作家の素顔を垣間見ることができる好著。



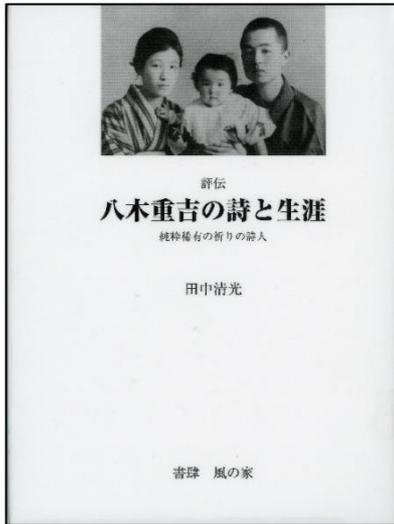
★『無明からの礫』

「短歌は、この＜危機的十年＞という時の流れの中で、何を、どのように表現してきたか？ 現実の＜実相＞に、真摯に立ち向かう歌人の初の批評文集。」（帯文より）



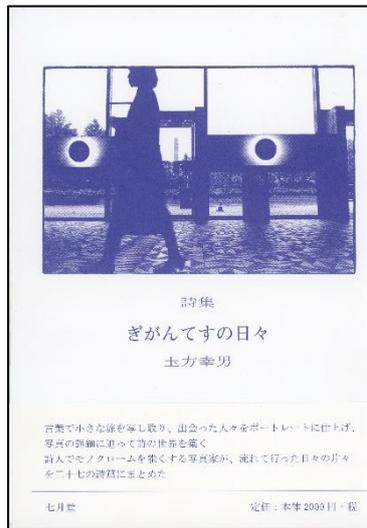
★『研究発表会の記録 五十嵐梅夫・浜藻の旅と俳諧』

町田ゆかりの江戸時代の俳人、五十嵐梅夫・浜藻父娘の俳諧活動と業績に関する論文5本と、梅夫編『いがらし句合』（寛政10年刊）の翻刻を収録。文学館で頒布中。



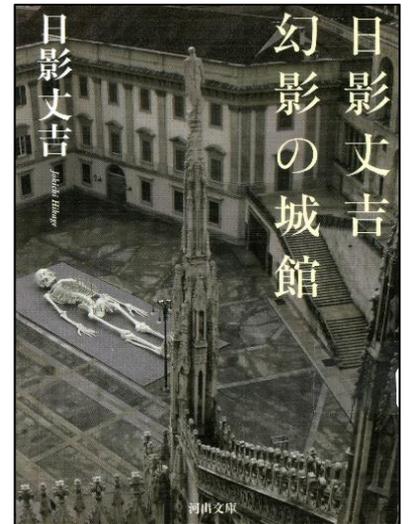
★『評伝 八木重吉の詩と生涯』

長年、八木重吉研究に取り組んでこられた詩人・評論家の田中清光さんによる最新評伝。今回の当館「八木重吉展」に合わせて刊行されたもので、書店では手に入らないので、ぜひこの機会にお求めを。



★『ぎがんですの日々』

写真家でもある著者の5冊目の詩集。同人誌「ぎがんです」掲載の連詩27篇を収める。「ぎがんです」とは、ジャイアント＝巨人族の意。詩人の目は「義眼です」に通じるとは、ある同人の言とか。

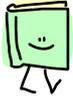


★『日影丈吉 幻影の城館』

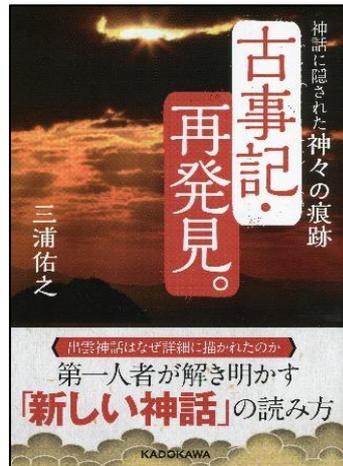
晩年を町田で過ごした幻想・ミステリ作家、日影丈吉は、1991年、伊藤病院で83歳の生涯を閉じた。没後すでに25年を経るが、いまでも熱烈なファンを持つ。河出文庫の本書は、多彩な読み味の傑作11篇を収める最新の作品集。

タイトル	編著者	出版社	出版年	分類
と、彼女は言った	片岡義男／著	講談社	2016.4	小説
星はらはらと 二葉亭四迷の明治	太田治子／著	中日新聞社	2016.5	評伝
★ 父 井上靖と私	浦城いくよ／著	ユーフォーブックス	2016.5	評伝
人間消失殺人事件 (講談社ノベルス)	赤川次郎／著	講談社	2016.5	小説
ジャックはここで飲んでいる	片岡義男／著	文藝春秋	2016.5	小説
★ 日影丈吉 幻影の城館 (河出文庫)	日影丈吉／著	河出書房新社	2016.5	小説
新選組剣客伝 (ハルキ文庫 時代小説文庫)	森村誠一／著	角川春樹事務所	2016.5	小説
こんがり、パン	赤瀬川原平／著	河出書房新社	2016.5	随筆
一私小説書きの日乗 遥道の章	西村賢太／著	KADOKAWA	2016.5	日記
★ 無明からの礫	今井正和／著	北冬舎	2016.6	短歌
吸血鬼は初恋の味 (集英社オレンジ文庫)	赤川次郎／著	集英社	2016.6	小説
★ ぎがんですの日々	土方幸男／著	七月堂	2016.7	詩集
蠕動で涉れ、汚泥の川を	西村賢太／著	集英社	2016.7	小説
スタッフ	道尾秀介／著	文藝春秋	2016.7	小説
【市民研究員研究発表会の記録】いま蘇える江戸の俳人 ★ 五十嵐梅夫・浜藻の旅と俳諧	町田市民文学館／編	町田市民文学館	2016.8	俳諧
★ 評伝 八木重吉の詩と生涯	田中清光／著	書肆風の家	2016.9	評伝

★印の作品は、欄外に書影と短評があります。



一般書



★『翻訳出版編集後記』

自伝的小説『遠いアメリカ』で直木賞を受賞した常盤新平は、もと早川書房の編集者として海外文学の翻訳・紹介に努めた。本書は、1959年から69年までの編集者時代を振り返りながら、1977年から79年に「出版ニュース」に連載した翻訳出版にまつわるエッセイをまとめたもの。

★『古事記・再発見。』

著者は、古代文学や神話研究の第一人者であり、人気作家、三浦しをんさんの父上。本書は、日本書紀とはまったく異質な、独自の作品としての古事記を、新たな視点で読み解くことによって、「語り継がれる敗者たちの記録」を明らかにしようとする意欲作。

★『会いたかった画家』

絵は、むつかしいことを考えずに、ただ好きで描いているだけでいいという著者が、「自分の考えで絵を描いた人」たちについて綴ったエッセイ集。ラスコーの洞窟壁画、パウル・クレー、モディリアーニ、セガントイーニから、花森安治、下町の荒物店「冠商店」の店主まで。

タイトル	編著者	出版社	出版年	分類
風土記の世界 (岩波新書)	三浦佑之／著	岩波書店	2016.4	歴史
★ 会いたかった画家	安野光雅／著	山川出版社	2016.5	絵画
★ 翻訳出版編集後記	常盤新平／著	幻戯書房	2016.6	出版
★ 古事記・再発見。	三浦佑之／著	KADOKAWA	2016.7	神話

【主な定期寄贈雑誌】

文芸誌：「相模文芸」「文芸多摩」「ベルク（山の文芸）」

詩誌：「騷（そう）」「璞（あらたま）」「構図」

短歌誌：「青垣」「歌と観照」「かがりび」「開耶（さくや）」

「日本歌人クラブ 風」「玉ゆら」「はなさい」

俳句誌：「青芝」「阿夫利嶺（あふりね）」「訝（こだま）」「山暦（さんれき）」

「蒼茫（そうぼう）」「都市」「波」「梅林」「風土」「八千草」「屋根」

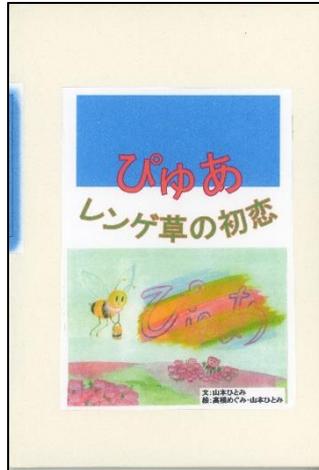


子どもの本

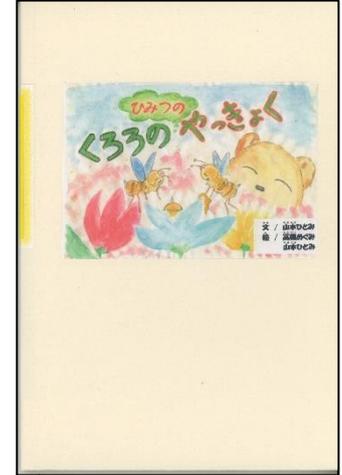
市内在住の山本ひとみさんによる素敵な手作り絵本。作成の動機や今後の抱負など、紙上インタビューにお答えいただきました。



★『ハチのきれいなぼくとやさしいおじいちゃん』
ぼくは夏休みになると、いつもおじいちゃんの家で過ごす。おじいちゃんは、いつも何も言わず、ぼくの頭をなでてくれた。でも、そのおじいちゃんが・・・。



★『ぴゅあ レンゲ草の初恋』
野原に咲いたひとつのレンゲ草の花。ミツバチのアビがやってくるのを、雨の日も風の日も、毎日心待ちにしています。アビが、蜜や花粉をいっぱい取れるように一生懸命咲いています。



★『くろろのひみつのやっきよく』
養蜂場のタオ爺さんが病気になって、ミツバチたちも心配しています。森ではむかしタオ爺さんの養蜂場を荒らした熊のくろろが・・・。

★インタビュー

♪素敵な手作り絵本ですね。お作りになられたきっかけをお聞かせください。

直接のきっかけは、長女が7歳の時です。古い本をいただき読んであげていたら、「せむしおとこ」ってなあに？と聞かれました。続いて「びっこひきひき」ってなあに？と、今度は言葉の響きを楽しそうに感じたようです。現在これらは差別用語として配慮すべき言葉ですが、古い言葉が整理されすぎると世代を超えて共有する感覚がなくなってしまうのではないかと思いました。実際、古い児童文学の文章には、豊かなりズムや生活に根差した表現がたくさんあるように思います。私なりに、そうした文章や表現・言葉を残したいと漠然と感じたのです。「とんぼ返り」「オウム返し」「蚤の夫婦」などは、子供も想像力を刺激され親子の会話も広がっていくのではないのでしょうか。

♪いままでにどんな作品を作られたのですか。また、何部くらいお作りになるのですか。

この度ご紹介いただいた3冊(A5判)は、もともとA4サイズの個性的な絵本でした。他に、ハスの花がテーマの紙芝居、宇宙がテーマの創作童話、6月がテーマのイラスト詩集、ひなまつりがテーマの豆BOOKなどがあります。展示などに備え5~10冊作るようにしています。

♪今回の3作にはいずれも「ハチ」が登場します。何か理由があるのですか。

縁あって、町田市内の養蜂場を案内していただいたことがあり、ハチ社会の不思議に触れ感動したのです。ハチの生態を知って以来、自然界を舞台にした物語が生まれるようになりました。一方で、私は、小さ

い時から嫌いなものの筆頭がハチでした。「ハチのきれいなぼくとやさしいおじいちゃん」の中には、私の体験が詰まっています。

♪物語の着想はどのような時に生まれるのですか。

何気ない日常の中で、ひとつの言葉が心に降りてくることがあります。それをタイトルに決めると一気にイメージが膨らみます。ある時尾根緑道を歩いていると、一面まっ黄色な菜の花の絨毯の上を飛び交うハチを見て、ふいに「ひみつのやっきょく」という言葉が浮かびました。「くろろのひみつのやっきょく」は、その時生まれました。

♪絵もご自身でお描きになるのですね。

イメージが膨らんだ時10～12の場面を頭の中で選び出して、簡単な絵で描き止め、ダミー一本を作り持ち歩きます。時々見て具体的な映像イメージになったら一気に描きます。別の方に描いてもらう時は、ダミー一本を作りながら、全体の流れを聞いてもらい、登場人物の感情の動きをわかってもらえるよう入念に打ち合わせる必要があります。

♪制作で一番ご苦労されるのはどんなところですか。

表紙用の紙に、表紙・背表紙・裏表紙用にカットしたプラスチック版を配置する時、少しでもずれると仕上がりに影響しますので、特に注意しています。

♪文学館の他には、どこで手に取ることができますか。

玉川学園の「ギャラリーわおん♪」さんが常設してくださっています。また、個人のはちみつやさんや、美容院で店頭においでくださっているという、有難いお話も伺っています。また、各地の手作り絵本展に出品しています。

♪今後の抱負をお聞かせください。

<人・動物・植物のつながり、命の交流>を、何気ない日常生活や宇宙空間を舞台に、目には見えないけれど確かなもの「愛」を表現した作品を、お届けしていきたいです。その中で、消えていく風景、失われていく習慣などを織り込んでいけるよう、心がけたいと思います。

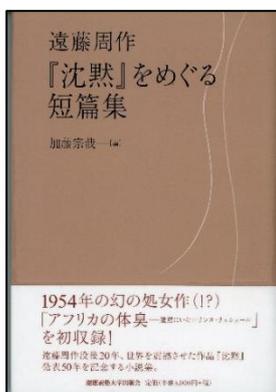
タイトル	編著者	出版社	出版年	分類
ハチのきれいなぼくとやさしいおじいちゃん（七色手作り絵本 I-1）	山本ひとみ／文・絵・制作	私家版	2015.1	物語
ぴゅあ レンゲ草の初恋（七色手作り絵本 I-2）	山本ひとみ／文・絵・制作	私家版	2015.1	物語
くろろのひみつのやっきょく（七色手作り絵本 I-3）	山本ひとみ／文・絵・制作	私家版	2015.1	物語
だーれのは？（幼児えほん）	新井洋行／作	講談社	2016.4	絵本
壁画にひそむ罫（妖怪道中三国志 2）	三田村信行／作	あかね書房	2016.5	物語
ねこざかなのたんじょうび	わたなべゆういち／作・絵	フレーベル館	2016.6	絵本
こぶたたちのあつийよる	わたなべゆういち／作・絵	フレーベル館	2016.6	絵本
キャベたまたんていからくりになんじゃやしきのなぞ	三田村信行／作	金の星社	2016.6	物語
つんっ！	新井洋行／作	ほるぷ出版	2016.7	絵本
ポンって咲くの？	山本ひとみ／作	私家版	2016.7	物語

トピックス

マーティン・スコセッシ監督による

映画『沈黙—サイレンス—』

(原作：遠藤周作) 2017年1月21日全国ロードショー



原作と出会って 28 年。アカデミー賞受賞の巨匠マーティン・スコセッシ監督が激動の現代に「人間にとって本当に大切なものとは何か」を描き出す壮絶なドラマ。

出演：アンドリュー・ガーフィールド、リーアム・ニーソン、アダム・ドライバー、窪塚洋介、浅野忠信、イッセー尾形、塚本晋也、小松菜奈、加瀬亮、笈田ヨシ 配給：KADOKAWA (PR 7/31より)

★『遠藤周作「沈黙」と長崎』

長崎市遠藤周作文学館で今年 5 月に開催された没後 20 年記念展の図録。刊行から 50 年目の今年、改めて作家にとっての「沈黙」の意味を問う。

★『「沈黙」をめぐる短篇集』

「沈黙」のテーマ「母なるキリストの世界」、人間の哀しみへの連帯と共感を描いた 13 の短篇。他に今年当館学芸員によって発見された幻の短編を収録。

タイトル	編著者	出版社	出版年
★刊行から50年-遠藤周作 『沈黙』と長崎	川崎友理子／編	長崎市遠藤周作文学館	2016.5
★『沈黙』をめぐる短篇集	遠藤周作／著	慶應義塾大学出版会	2016.6

■文学館秋の展覧会のご案内■

開館 10 周年記念

「八木重吉—さいわいの詩人—」展

会期：2016年10月22日(土)～12月25日(日)

観覧時間：10時～17時

観覧料：一般 400 円、大学生・65 歳以上 200 円、高校生以下無料

*ただし、最終日 12 月 25 日は無料

休館日：毎週月曜日、12 月 8 日(木)